

平成20年6月25日

平成20年

第6回教育委員会定例会会議録

大田区役所 教育委員会室

平成20年第6回教育委員会定例会会議録

平成20年6月25日午後1時00分大田区教育委員会定例会を開催した。

1 出席委員

渡 邊 盛 雄	委 員	委員長
高 山 美智子	委 員	委員長職務代理者
野 口 和 矩	委 員	
櫻 井 光 政	委 員	
清 水 繁	委 員	教育長

計 5 名

2 出席した職員

教育委員会事務局次長	金 澤 彰
庶務課長	下遠野 茂
教育改革担当課長	薄 根 幸
施設担当課長	石 井 一 雄
学務課長（私学行政担当課長兼務）	清 水 耕 次
指導室長（教育センター所長兼務、 幼児教育センター所長兼務）	鈴 村 邦 夫
社会教育課長	榎 田 隆 一
大田図書館長	鈴 木 慶 三

計 8 名

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条及び大田区教育委員会
会議規則第3条により、第6回大田区教育委員会定例会を招集した者は、
次のとおりである。

委員長 渡邊 盛雄

○委員長

ただいまから、平成20年第6回教育委員会定例会を開催する。

○委員長

これより審議に入る。本日の出席委員数は定足数である。よって会議は成立した。次に会議録署名委員の指名を行う。本日の会議録署名委員に野口委員を指名する。

日程第1 「教育長の報告事項」

○委員長

教育長から報告を求める。

○教育長

資料) とうきょうの教育 特集号「東京都教育ビジョン(第2次)」

平成20年5月に東京都が東京都教育ビジョンの第2次を策定した。これは、東京都が平成18年12月に打ち出した「10年後の東京」という基本計画にそって作成されたものであり、教育基本法第17条に基づく教育振興基本計画としても位置づけている。現在、大田区では、基本構想に基づく基本計画を平成20年度中に策定するための作業を進めている。教育委員会としても新教育プランを新たに作成するが、これも教育振興基本計画として位置づけるため、東京都との関係でパラレルに考えられるのではないか。

では、東京都教育ビジョン(第2次)について説明する。

東京都教育ビジョン(第2次)には、2つの柱がある。1つは社会全体で子どもの教育に取り組む。もう1つは生きる力を育む教育を推進するである。この2つの柱に基づき、5年間で取り組むべき重点施策とその実現に向けた具体的な推進計画を示したものが今回の東京都教育ビジョン(第2次)である。ビジョンそのものは、10年間の展望をもって作成されているが、とりあえず5年間で成果指標などを出し、実現の度合いを点検できる計画にしている。そして2つの柱に基づき、家庭や地域教育力の支援、教育の質の向上・教育環境の整備の推進、子ども・若者の未来を応援するという3つの視点から、12の取り組み方法を出し、具体的な施策として27の重点施策を盛り込んでいる。

ところで、東京都は10年後の社会を次のように想定している。人口は平成27年には現在より若干多い1,300万人となり、公立の小学校は平成24年度、中学校は平成27年度くらいまで増加する。そして、多くの都民がボランティア活動やコミュニティづくりということで活躍、特に団塊の世代が退職した後地域で活躍する社会である。情報通信技術(ICT)が生活の隅々まで浸透し、情報のネットワークが構成されている社会である。グローバル化がさらに進展し、様々な主体や外国の文化などと共生して、激しい国際競争にさらされている社会であると想定し計画を立てている。

また、教育の果たす役割は、国家・社会の発展の礎となることは昔も今も変わらない、個人の能力を伸ばして自立した人間を育てるということと、もう一つは国家や社会の形成者となる国民を育成するということである。

この東京都教育ビジョン(第2次)の中で、新教育プランを作成する上で参考になると思うものがいくつかある。

家庭や地域の教育力向上を支援するという視点の中の「団塊の世代等の活躍により地域教育活性化、学校・家庭・地域・社会が連携した教育活動の推進」である。私は、基本構想に基づき、地域力を活かした学校運営をあげている。地域力を活かし、学校・家庭・地域社会が連携して教育活動ができる仕組みを作っていくということである。特に団塊の世代等が主体的に役割を果たしていくような想定については、大田区とも親近感が持てる。また、家庭の教育力の向上という視点では、小学校入学に至るまでの家庭教育に対して、それを担っている親への支援体制の充実とあり、こちらも取り入れていくことができると思う。

そして学力の向上では、現職教員の指導力の向上、外部人材の活用ということがある。やはり、学校外にいる様々な人材に学校教育の中で活躍していただく場をつくることによって、教員の負担が軽減されると同時に教育の質も向上していこうと思われる。

それとここには書かれてはいないが、東京ミニマムをつくる計画がある。小学校、中学校の教育の中で、最低限必要なものを明示するような研究をしていくというので、そういうものがでてくると分かりやすいかと思う。

大田区も地域力と国際化を2つの大きな指針としているが、国際化に関連して外国人の子どもに対する教育の充実ということをやっているのでも、これも参考になると思う。

最後に、子ども・若者の未来を応援するという視点で、首都東京の国際社会で活躍する日本人の育成として人間関係を築く基礎となる力の育成があげられている。やはり子どもたちの人間関係能力を上げていくことは重要であり、そのためのコミュニケーション能力をしっかりと形成していくことや子どもの自尊心を高めていくことが必要である。日本の子どもたちは、自分が大事にされている、自分に価値があるという感情がアメリカや韓国等と比べて著しく弱いところがある。原因を含めて十分に研究し、子どもの価値観を変えていくという作業が必要だともあり、それも同時にできるかと思う。様々な体験活動を通して、コミュニケーション能力、人間関係能力を高めていくといったことも東京都教育ビジョン(第2次)ではうたっている。

このような点が、今後新教育プランを策定していく上で参考になる。また東京都とも連携を図りながらすすめていきたい。

○委員長

教育長の報告に質問、意見はないか。

(「なし」との声あり)

○委員長

それでは承認してよろしいか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

承認する。

日程第2 「部課長からの報告事項」

○委員長

部課長からの報告を求める。

○庶務課長

資料) 大田区の教育概要 平成20年度版

大田区の教育概要、平成20年度版が完成したので、報告する。

内容については、昨年同様、教育委員会の目標と計画、委員会の制度、教育の充実、教育の推進としてまとめている。詳細については、後程ご確認いただきたい。

○施設担当課長

6月18日午前、杉並区立小学校で起きた転落事故に関連して報告する。

この事故は、6年生の男子児童が屋上にあるトップライトという採光をする窓の上で遊んでいたところ、トップライトが割れ転落したというものである。

この事故を受け、事件発生同日に各学校へトップライトの緊急調査をした。

その結果、大田区の場合はトップライトをプール更衣室や給食室、渡り廊下の上等には設置をしているが、杉並区のように屋上や複数階にわたる吹き抜けで児童が入るような屋上には設置していないと確認した。同様のトップライトはなかったが、翌日に指導室より屋上の安全確認と安全指導の徹底を指示した。

○学務課長

資料) 学校給食費の徴収状況について

学校給食費の徴収状況について報告する。資料をご覧ください。

平成20年4月末現在の平成19年度分の給食費徴収状況であるが、未納のある学校は56校で63.64%、未納児童生徒数は351人で0.91%、未納金額は約844万円で0.4%である。これを平成18年度分の同時期の状況と比較すると未納校は8校減で9.1%の改善、未納児童・生徒数は0.11%の悪化、未納金額についても0.03%の悪化となっている。

また平成20年3月末現在の平成19年度分の給食費徴収状況と比較すると、未納校、未納児童・生徒数、未納金額、いずれも大幅に改善されている。

平成18年度分学校給食費の決算後の徴収状況であるが、平成20年4末日現在、未納校は47校で53.41%、未納児童・生徒数は123人で0.32%、未納金額は約425万円で0.25%となっている。各学校の努力もあり、決算時から見ると未納児童、生徒数、未納金額はともに大幅に改善されている。また、平成20年3末日現在と比較しても、わずかながら改善されている。

来月は、決算時の報告をさせていただく。

○指導室長

資料) 平成20年度大田区学習効果測定結果

平成20年度大田区学習効果測定の結果の概要について報告をする。

この学習効果測定は、本年度から区独自予算で実施するものであり、小学校4年生以上の児童生徒を対象に5月8日に実施した。

資料をご覧いただきたい、ここに書いてある期待正答率とは、このテストにおいて当然としてほしい点数であり、上段の表では学年毎、教科毎に期待正答率・平均正答率・平均正答率と期待正答率との差を掲載している。下段の表であるが、期待正答率を上回った児童生徒の割合を、学年毎、教科毎に掲載している。

小学校の傾向である。

4年生の理科を除いた全ての教科で平均正答率が期待正答率を上回っており、期待正答率を国語では5・6年生が3ポイント以上、算数では全学年が5ポイント以上、社会では4年生が6.1ポイント、5年生では9.5ポイント上回る結果となった。また、全学年、全教科で7割の児童が期待正答率を上回っている。

一方、中学校の傾向である。

1年生の平均正答率は、ほぼ期待正答率に近い結果となっているが、2・3年については、全ての教科で期待正答率を下回る結果となった。また、期待正答率を上回った生徒が7割を超えたのは1年生の国語と算数、5割を超えたものは1年生の社会、2・3年生の国語・数学・英語で、それ以外は5割を下回っている。

詳細については、今後、授業改善リーダーの力を借りながら、区全体の分析と考察を進め対策を示して行きたいと考えているが、中学校については、学年が上がっても学力を維持・向上させていくための分析と対策が必要だと考えている。

○社会教育課長

1. 国体カヌー競技（フラットウォーターレーシング）の開催について

資料) 第68回国民体育大会（東京国体）の開催準備について

京浜南運河で開催予定の国体カヌー競技について報告する。

東京都から6月4日に第68回国民体育大会の開催申請書を日本体育協会に提出した旨、報告があった。

今後、日本体育協会の審査を経て、7月の同協会の理事会で内定が行われる。平成22年度に正式決定がされ、平成24年度にリハーサル大会、平成25年度に本大会が実施される予定である。主催者は、財団法人日本体育協会・文部科学省・東京都であるが、各競技会については、会場地区町村を含むことになっているので、カヌー、フラットウォーター競技については、大田区も主催者となる。

2. 夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操（大田区大会）

資料) 夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操（大田区大会）の実施について

夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操（大田区大会）の開催について報告する。

これは、夏休み中に全国各地で開催される朝のラジオ体操で、今年80周年となる。大田区での開催は7月20日、夏期巡回の第1日目となる。会場は平和の森公園の平和の広場、雨天の場合は大森スポーツセンターになる。当日は、大森第五小学校の児童がラジオ体操の歌を歌うほか、晴天の場合は教育テレビで放映が予定されている。

ラジオ体操は6時30分からであるが、開催式等の関係で開催は6時からとなっている。早朝ではあるが、ぜひご参加いただきたいと思う。

3. 第61回都民体育大会の成績について

資料) 第61回都民体育大会総合成績

第61回都民国民体育大会の成績についてご報告する。

6月8日に閉会式が行われ、大田区が男女とも優勝したとの報告があった。

資料をご覧くださいと分かるように、男女とも2位以下を大きく引き離しての優勝である。本日は文化の森で解団式があるので、よろしく願います。

○委員長

部課長からの報告に質問、意見はないか。

○高山委員

給食費のことについて聞く。

あるPTAの会長さんから、給食費の値上げや回数を減らす予定はあるのかと聞かれた。新聞等でもいろいろと報道されているが、大田区ではそのような予定はあるのか。

○学務課長

給食費については、昨年度の時点で原材料費の上昇はある程度予想していたが、それ以上に物価が上昇しているという実態が、現場から少しずつ上がってきている。値上げをするという前提ではなく、検討会を発足して給食費の値段が適切であるか見直しをしていきたいと思っている。今年度中に一定の結論を出し、必要な対応をしていきたいと考えている。

○委員長

ほかに質問、意見はないか。

○野口委員

大田区学習効果測定の結果について聞く。

昨年度、都の学力調査で大田区の子どもたちの学力が低くなっているという結果がでた。それに伴い、様々な形で学力向上のための取り組みをしてきている。昨年までのデータと今回の測定結果は簡単に比較できないと思うが、感覚的で構わないので、学力が向上してきているのかを知りたい。

もう1点は、私の感想になるが、小学校は、ほとんど全ての教科で期待正答率を上回っており、中学校では、学年が上がるほど下降していつている。これを上向きにする方策はこれから考えていかななくてはいけない。

前回も話したが、この結果は小学校から中学校に進む時に、私立へ進学する子が1000人くらいいるからではないか。私は、小・中学校の義務教育の間は、地域の公立校で学び、高校進学時に都立や私立、専門学校への進学を選ぶのが良いと思っている。多

くの子どもたちが地域の学校へ通うようになってほしいと思っている。

○指導室長

学習効果測定については、今年度から区独自で実施している。そのため、昨年度までの都の学力調査結果とは比較が難しい。そのため、私の印象ということでお答えしたい。

まずは、小学校についてである。

例えば算数、平均正答率が6から7点上回っている。3年生以上で実施している少人数指導に加え、昨年度からは学習指導講師を予算化して必要な学校に配置を個別指導あるいは補充学習に充てていることが結果にでていると思う。また理科では、昨年度半ばから、おもしろ理科教室として人的な配置をするとともに、児童の興味・関心を育てる実験の例示等を行っていること。そして、昨年度の結果を受けて、各学校では宿題や早寝・早起き・朝ごはんという基本的な生活習慣のことを意識し、家庭への働きかけを行っていること等の取り組みの成果がでてきていると感じている。

次に中学校についてである。

児童・生徒の成績の分布図を見ると小学校では、70から80ポイントをとる児童が多く、そこを頂点に大きな山型を描いているが、学年が上がるにしたがって、様々な点数に分布してグラフが横ばいになってしまっている。学習内容が難しくなるにしたがって、なかなか勉強に興味・関心がもてない子がだんだんとでてきてしまっている。その結果、全体のポイントが下がってしまっているのではないかという印象をもっている。今後、なかなか勉強に興味・関心を持たない生徒をどのように高めていくのか、授業をどう工夫していくかが必要ではないかと考えている。

○委員長

ほかに質問、意見はないか。

(「なし」との声あり)

○委員長

それでは承認してよろしいか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

承認する。

日程第3 「大田区教育委員会教育委員長の選挙」

○委員長

大田区教育委員会教育委員長を選任する。

選挙の方法は、大田区教育委員会会議規則第6条により単記無記名投票と指名推選があるが、いずれの方法で行うかお聞きしたい。

(「指名推選」との声あり)

○委員長

選挙の方法は指名推選でよろしいか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

選挙の方法は、指名推選とする。

それでは教育委員長には、どなたを推選するか。

(「高山委員長職務代理にお願いしたい」との声あり)

○委員長

教育委員長に高山委員長職務代理との発言があった。

他の委員の推選はないか。

(「ありません」との声あり)

○委員長

この件については、委員の一身上に関することであり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第5項の規定により当事者は議事に参与することができないが、同条同項のただし書きの規定により委員会の同意を得れば会議に出席し、発言することができる。いかがか。

(「会議に出席し発言することに同意する」との声あり)

○委員長

同意を得られたので、このまま会議を続行する。

高山委員長職務代理を教育委員長と決定してよろしいか。

(「賛成」との声あり)

○委員長

全員の賛成により、平成20年6月28日から高山委員長職務代理に教育委員長に就任していただくことに決定した。

○委員長

高山委員長職務代理が委員長に選任されたため、新たに委員長職務代理を選任する。
選挙の方法は、大田区教育委員会会議規則第6条により単記無記名投票と指名推選があるが、いずれの方法で行うかお聞きしたい。

(「指名推選」との声あり)

○委員長

選挙の方法は指名推選でよろしいか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

選挙の方法は、指名推選とする。

それでは教育委員長職務代理には、どなたを推選するか。

(「野口委員にお願いしたい」との声あり)

○委員長

教育委員長職務代理に野口委員との発言があった。

他の委員の推選はないか。

(「ありません」との声あり)

○委員長

この件については、委員の一身上に関することであり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第5項の規定により当事者は議事に参与することができないが、同条同項のただし書きの規定により委員会の同意を得れば会議に出席し、発言することができる。いかがか。

(「会議に出席し発言することに同意する」との声あり)

○委員長

同意を得られたので、このまま会議を続行する。

野口委員を教育委員長職務代理と決定してよろしいか。

(「賛成」との声あり)

○委員長

全員の賛成により、平成20年6月28日から野口委員に教育委員長職務代理に就任していただくことに決定した。

○委員長

それでは、新教育委員長に就任していただく高山委員に一言ご挨拶をお願いする。

○高山委員

委員長という大役を仰せつかった。これから先1年、どういうことがあるか大変不安ではあるが、清水教育長、それから委員の皆様と大田区の子どもたちのために何ができるかを考えながら、大田区の教育に少しでも役立てるように活動したいと思う。

皆様のご協力よろしく申し上げます。

○委員長

私からも挨拶をさせていただきます。

この1年間、委員長の職務を与えていただき、ただ無我夢中で役目を果たしてきた。

特に多くの区切りに立ち会えたことが印象に残っている。体育館の閉館、大森 海苔のふるさと館あるいは尾崎士郎記念館の開館。そして、新制中学校発足60年の節目の年ということで、私の母校も含む多くの中学校が60周年を迎え、多くの式典に出席をさせていただいた。60年前は、ちょうど私が中学に進んだ年である。当時、私の通うはずの大森第七中学校はまだ完成をしておらず、区からの委託生として東京高校にあった東京中学校に入学した。自宅からも近く、自分の庭のような地域の学校に通った。周年式典は多くの方の話聞く機会となり、当時の生活は非常に大変であったが仲間と一緒に学んだ記憶が呼び起こされ、非常に印象深い会が多かった。

最後になるが、皆様の協力をいただき、無事役目を果たすことができた。

御礼申し上げます。

○委員長

これにより、第6回教育委員会定例会を閉会する。

(午後1時55分閉会)